

富士河口湖町立 教育センターだより

No. 4



平成30年5月25日 文責 渡辺富美夫

支援員対象研修会開催

5月9日（水）に、支援員対象研修会が行われ、支援員14名が参加してくださいました。はじめに、渡辺教育長より、「今、学校は様々な取組を様々な課題を抱えながら行っている。それを担任一人で担うには無理があり、それを補助する人が必要である。生活支援や学習支援を行ってくださっている支援員さんは縁の下の力持ち的存在であり、担任からも『子どもが変わってきた。』という声も聞かれる。学校にとってはなくてはならない存在であるが、仕事は大変で、悩みも多いと思われるので、校内での連携や支援員同士のつながりを大切に、今日のような研修も活用してほしい。」というお話がありました。



講義は健康科学大学の瀧口綾先生により、「支援員の役割、子どもへの基本的な対応、担任との連携、支援員の困り感と対応の例、支援員活用の課題、支援員による成果」という内容で行われました。講義の後半は、支援員さんの「困っていること・課題、共有したいこと」を個々にカードに書き、それをもとに瀧口先生がそれにこたえたり、同じような悩みなどを共有したりして、終わりました。時間の関係で全てのことには触れることができませんでしたが、終了後、個々に瀧口先生に相談していました。

参加しての感想

～*～

- ・子どもたちの対応で、すぐに「ちゃんとしなさい！しっかりするよ！」とつい言ってしまいます。具体的な言葉、数字を使い、「あと何回するよ、あと何回書くよ」など見通しが持てるように声かけをしようと、改めて思いました。資料の「子どもへの基本的な対応」はすごく共感しました。
- ・集団生活の中での支援学級の子どものストレスを考えてみたいと思います。
- ・いろいろな人のお話をきけて良かったです。ほめるところを探せる目を養いたいです。これからも毎日、前向きにがんばりながら自分も成長していきたいです。
- ・いろいろな方の話をきけて参考になりました。今日は支援員の仕事をほめて認めていただき、とてもうれしかったです。
- ・支援員としての子どものかわり方で、迷うことや忘れがちになることを研修を通して相談できたり、学習できてよかったです。明日からの支援に生かしていきたいと思います。

困っていること、課題、共有したいこと

～*～



- ・子どもとのかかわりでどこまで子どもの領域に踏み込んでいいのか分からない。（他、一人一人のそれぞれのかかわり方の難しさ）
- ・周囲の児童への障害の説明。「なんで、そんな簡単な〇〇をやっているの？」と本人に聞こえるようになってしまふ子に、とっさに言葉が出てきませんでした。（他、他児童とのかかわり方について）
- ・児童の対応で朝礼に出られず、当日の予定（情報）が入ってこない。児童に聞かれても答えられない。（他、情報共有等連携の課題）